

多様性を認め 差別のない社会を作るには

発達障害、LGBTの理解

新潟大学教職大学院

長澤正樹

多様性

- 精神障害
- 外国人
- 高齢者
- 発達障害
- LGBT

精神障害について

- 統合失調症
 - 精神機能のネットワークがうまく働かなくなる
- 気分障害（そううつ）
 - 気分が沈んだり、「ハイ」になったりする
- 薬物の依存、中毒
 - 覚醒剤、大麻、コカインなどの薬物の依存・中毒
- 不安障害
 - 理由なく不安になる。パニック障害など

[精神障害者総数 361万1千人](#)(2014年度。内閣府)

外国人児童生徒について

- 日本語指導が必要な児童生徒
 - 外国籍：約34,000人。日本国籍：約10,000人
- どんな母国語か？
 - ポルトガル語、中国語、フィリピン語
- 使用言語
 - フィリピン語、中国語、日本語
- 日本語担当指導教員が日本語の指導

高齢者について

- 65歳以上の人は、3,515万人 内閣府(2018)
 - 65歳以上の割合は、27.7%
 - 高齢者のいる世帯の割合は、48.4%
- 介護が必要な高齢者
 - 認知症：65歳以上の高齢者の約15%(2015)
 - 介護認定を受けた人：約592万人(2014)
 - 高齢者の約17%
- 働いている高齢者：65歳から69歳(2016)
 - 男：53%、女：33.3% 内閣府(2017)

発達障害のある人について

- 学習障害
- 注意欠如多動障害
- 自閉スペクトラム障害

学習障害

- 知的な遅れはないけれど、読み書き計算が極端に苦手
- 国語、算数(数学)など教科学習が極端に苦手
- 不器用だったり、要領が悪かったりする人もいる

信頼性のある学力テスト、個別の知能検査、
養育者からの聞き取りなどを通して判断します。
素人は判断できません。

注意欠如多動障害(ADHD)

(様々なタイプがあります)

- 集中しての作業や学習が苦手
- じっとしていることが苦手で、手遊びやおしゃべりが止まらない
- 列に並べない、待てないなど、強い衝動性がある

専門家が、行動観察や養育者からの聞き取り、スクリーニングテストをするなどして判断します。

素人は判断できません。

この特性は、虐待を受けている子、養育上の問題のある子にも見られるため、特に判断がむずかしい。

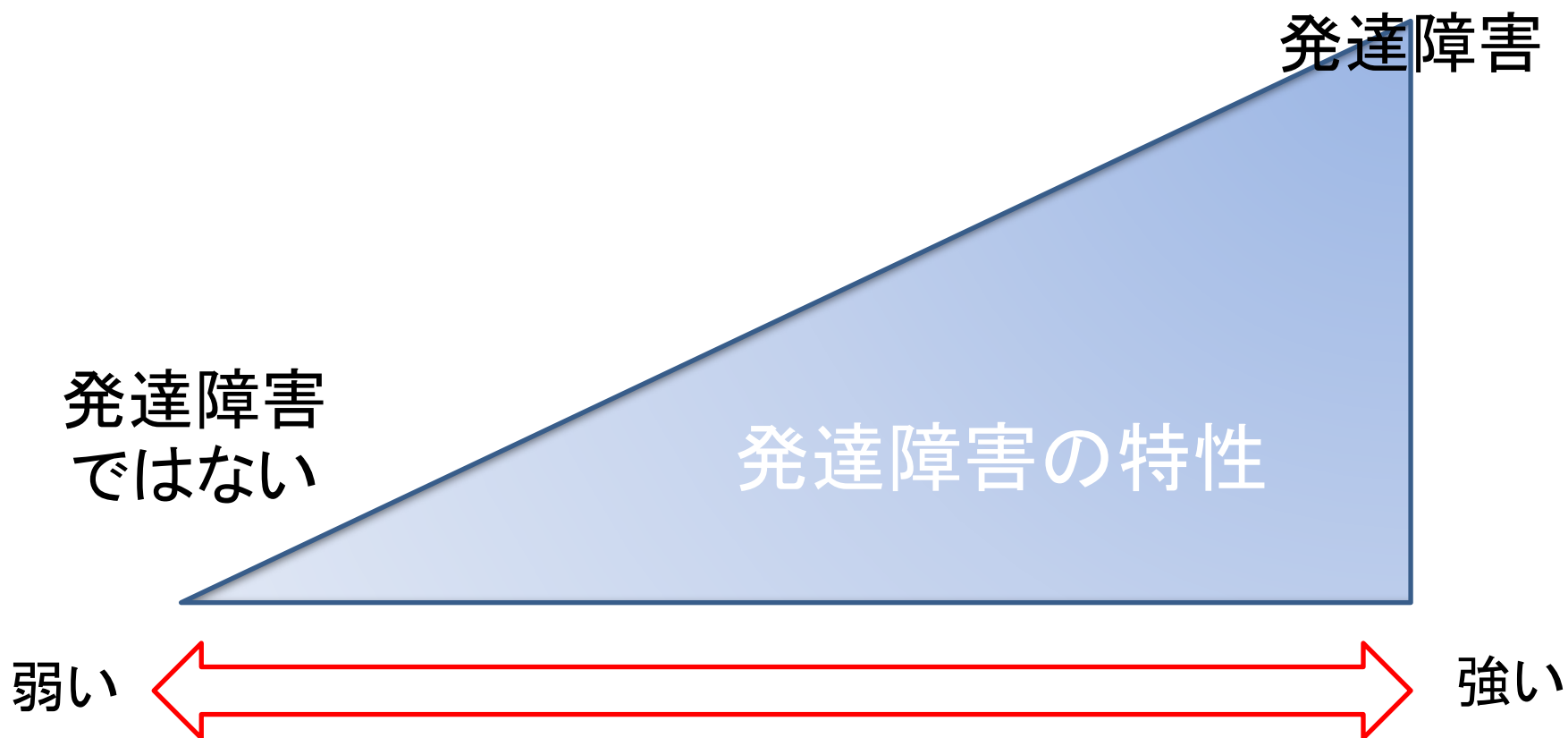
自閉スペクトラム障害(ASD)

(一般的な特徴です)

- 相手の気持ちや感情を理解することが極端に苦手
- 人とかかわったり楽しさを共有することがあまり好きではない
- スケジュールやきまったパターン通りに物事を実行することにこだわる

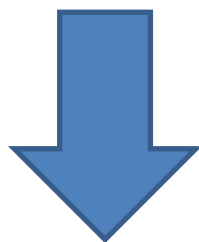
専門家の観察やインタビュー、養育者からの聞き取り、知能検査をはじめとする検査を実施して判断します。
様々なタイプがあり、素人は判断できません。

スペクトラム(連続体)という考え方



すべての人に発達障害の特性があるといえるでしょう

特性が強く、
本人が生きにくさを感じ、
周囲に理解してほしい強い思い



発達障害という診断

LGBTとは

- Lesbian: 女性同性愛者
- Gay: 男性同性愛者
- Bisexual: 両性愛者
- Transgender: 性別越境者
 - FTM: 体は女、心は男
 - MTF: 体は男、心は女
 - 心と体の性に違和感を持つ人
- 性同一性障害
 - 不一致により、強い生きにくさを抱えている人

4つの性

体	心	性的指向	社会の性
男	男	男	男
女	女	女	女

体、心、性的指向、社会の性(表現)
LGBTとは、4つの性の組み合わせが少数派の人たち

発達障害:覚えてほしいこと

- 必要な支援は一人一人異なる

同じ障害でも、支援が同じとは限らない

- 困っていること、必要な支援を聴く

失敗を責めるのではなく、うまくいかないつらさをわかってあげる

- うまくいくための支援を一緒に考える

周囲の支援者が、いろんな支援を提案し、本人がきめる

- 合理的配慮としてみんなで認める

うまくいくための支援は、合理的配慮という権利

合理的配慮(例)

- 学習障害
 - 読み上げソフト、漢字にカナを振る
 - キーボード入力、音声入力、アプリの活用
- ADHD: 集中できるための工夫・支援
- ASD: 情報の視覚化(見て理解できる工夫)

本人の申し出に基づき、専門家の意見を聞き、
話し合いで決定します
必要な支援は一人ひとり違います

合理的配慮の申し出について

(学校の場合)

- 合理的配慮が妥当かどうかの判断の根拠
 - 診断書、諸検査の結果、個別の教育支援計画
 - 専門家の助言など
- 決定のプロセス
 - リソースをベースとした多様な選択肢
 - 「話し合う」ことが重要：話し合いによる合意形成
- 地域連携・不服審査
 - 障害者差別解消支援地域協議会

理解啓発活動を進める

学校では、相談窓口、専門家を入れ対応組織の構築

LGBT:覚えてほしいこと

- 性の多様性は当たり前であり自然である

様々な調査結果、人口比8%ぐらいの割合。「働き方と暮らしの多様性と共生」研究チーム(2019)

- 好みや価値観を尊重すること

自分と違っていても、相手の人権を尊重すること

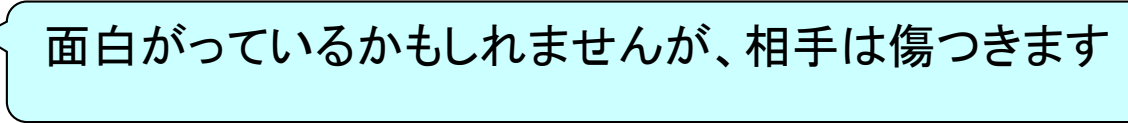
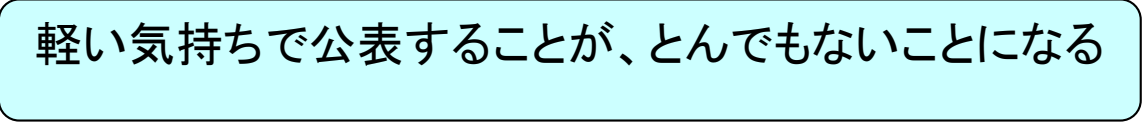
- 「体の性」「性指向」だけにこだわらない

好きな人に求めることは趣味、食事、おしゃべりなどたくさんある

- 常にフェアであること

多数派の価値観を押しつけない。少数であっても同じように接する

必要な支援

- 学校としての対応・配慮
 - 制服、トイレ・更衣室、体育
 - 健康診断、宿泊学習
 - まわりの子どもへの対応：理解啓発
- 絶対にしてはいけないこと
 - ことば、表現  面白がっているかもしれませんが、相手は傷つきます
 - アウティング  軽い気持ちで公表することが、とんでもないことになる

カミングアウトしようと思ったとき

(生徒の場合)

1. まずは相談(SC、先生・・・)
 - 自分の気持ちを整理する
2. カミングアウトする相手は？
 - 秘密を守れる人ですか？
3. 準備
 - 理由、目的、伝えたい内容(書面にまとめるなど)
4. 実行
 - 場所の確保、目的別の対応

ひとりで考え実行せず、信頼できる人に相談しよう

中高生向け図書

- 「ふつう」ってなんだ？ LGBTについて知る本
– 学研プラス
- よくわかるLGBT 多様な「性」を理解しよう
– PHP研究所
- LGBTなんでも聞いてみよう 中・高生が知りたいホントのところ
– 子どもの未来社

支援団体

- LGBT支援団体22選([Job Rainbow](#))
 - 支援団体の案内
- [LGBTの家族と友人をつなぐ会](#)
 - 家族、友人による会
- [虹色ダイバーシティ](#)
 - 働きやすい職場づくり
- [日本セクシャルマイノリティ協会](#)
 - 様々なサポート
 - 「にじの相談窓口」で相談できます



生徒からカミングアウトされたら

(教師の場合)

1. ルールを話す
 - アウティングしない。伝える相手を明示
2. 生徒の話をしっかり聞く
3. 支援してほしいことを確認する
4. 話していい相手を確認する
5. クラスでのカミングアウトについて
 - クラスでLGBTの学習会
 - 反応を見て判断

多様性を認めるためには？

ひとつの属性よりも**その人自身**を見る
目立つ属性だけではなく、**全体**を見る

同じ？ 違う？

- 共通している項目がありますか？
- 共通している項目で、会話ができそうですか？
- 会話してみて、どんな気持ちですか？
- 相手の見方が変わりましたか？

まとめ

- 違いだけに目を奪われない

発達障害やLGBTなど、自分との違いだけで判断しないこと

- 共通する属性を見ましょう

自分と同じ属性が必ずあるはず。案外気が合うかもしれません

- 対話でしてほしいこと、そうでないことを知ろう

きめつけない。発達障害やLGBTだって、人それぞれ。話し合おう

- 多様性は当たり前

違っているから面白い。違いの中から新たな発見や進歩がある

障害者差別解消法



- 目的
 - 障害のある人に対して、差別をしない
 - 障害のある人もない人も、お互いを理解し、共に生きる
- 差別とは
 - 障害を理由に排除すること、差別的な対応
 - 合理的配慮を提供しないこと

障害のある人への差別を禁止し、相互理解を促進するための法律です
ぜひ、資料をダウンロードし、リーフレットを読んでください

長澤研究室



特別支援教育・発達障害の情報
講演会の資料

